



県立高校改革推進プラン

第1次実施プログラム

令和4年10月19日

千葉県教育委員会

目 次

第1次実施プログラムについて	1
----------------	---

I 魅力ある県立高校づくりの推進	2
------------------	---

1 普通科及び普通系専門学科・コース	2
(1) 教員基礎コースの設置	
(2) 保育基礎コースの設置	
(3) 医療系コースの設置	
(4) グローバルスクールの設置	
(5) 理数教育の充実	
2 職業系専門学科・コース	7
(1) 農業教育の充実	
(2) 商業教育の充実	
(3) 福祉教育の充実	
(4) 情報教育の充実	
3 総合学科	12
(1) 総合学科の設置	
4 社会のニーズに対応した教育	13
(1) 地域連携アクティブスクールの設置	
(2) 通信制高校の配置（通信制協力校）	

II 県立高校の適正規模・適正配置	15
-------------------	----

【全日制高校】

1 全日制高校の適正規模・適正配置	15
-------------------	----

第1次実施プログラムについて

県教育委員会では、令和4年度以降の県立高校改革を進めるため、令和4年3月に新たな計画となる「県立高校改革推進プラン」を策定しました。

本プランは、令和4年度（2022年度）を初年度として、10年後の令和13年度（2031年度）を目標年次とするもので、実施に当たっては、具体計画（実施プログラム）に基づき推進することを基本としております。

AI等をはじめとする技術革新の進展等により、社会や生活が大きく変化しつつある中で、プランでは、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じた多様な科目選択が可能となる仕組みを充実させるとともに、生徒一人一人の多様なニーズに応じた教育活動を展開することを可能にする体制を整える必要があることや、職業に関する専門的な知識・技能を高めるための実践的なキャリア教育・職業教育の充実、さらには人口の減少に伴う全県的な生徒減少への対応の必要性などが示されています。

これらを踏まえ、具体的な個々の改革内容について検討を進め、このたび、今後実施すべき高校改革のうち、検討を終えた内容について、「第1次実施プログラム」として取りまとめました。

本プログラムでは、既存のコースの設置拡充のほか、新たな価値を生み出す人材の育成に向けたコースの設置、拠点校の指定や連携組織の設置による更なる連携の充実、さらには幅広い学びのニーズへの対応など、12項目18校の再編に係る内容を示すとともに、都市部と郡部における今後の統合の方向性を示しております。

なお、今後も社会の変化に対応し、生徒それぞれの豊かな学びを支え、地域のニーズに応える、活力と魅力ある高等学校づくりを目指し、プランに基づき、実施すべき高校改革について引き続き検討を進め、随時公表するとともに、その都度パブリックコメントなどを実施して、幅広く御意見をいただく予定としております。

I 魅力ある県立高校づくりの推進

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 教員基礎コースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
国 府 台	6 年度	普通科	・教員基礎コースを設置
成 東	6 年度	普通科 理数科	・教員基礎コースを設置
大 多 喜	6 年度	普通科	・教員基礎コースを設置

【再編の内容】

- ・教育に関心を持ち、将来教員を目指す生徒が、教員としての基本的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識等を育むため国府台高校、成東高校、大多喜高校に教員基礎コースを設置します。

【教育内容等】

- ・教育に関する学校設定教科・科目を設け、体験を重視した学習や、外部講師による講座等を実施します。
- ・近隣の小・中・特別支援学校等との連携による教育体験実習を実施し、教員としての職業意識を育みます。
- ・教員養成系大学や教育機関等との幅広い連携による出前講座や特別講座、大学の講義体験、学生との交流会などを実施し、専門的な学びを通して教員になるための基礎を学びます。
- ・先行して設置した学校の実践等で得られた成果を相互に共有し、教育内容の一層の充実を図ります。
- ・教員基礎コースで身に付けた資質・能力を生かし、教員養成系大学等に進学し、教職への関心を深めることにより、大学進学後に教員免許を取得することを目指します。

(2) 保育基礎コースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
鎌ヶ谷西	6年度	普通科	・保育基礎コースを設置
土 気	7年度	普通科	・保育基礎コースを設置

【再編の内容】

- ・小学校入学前までの乳幼児に対する保育や幼児教育に興味・関心を持ち、保育士や幼稚園教諭等を目指す生徒が、その基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識等を育むため、**鎌ヶ谷西高校、土気高校に保育基礎コースを設置**します。

【教育内容等】

- ・学校設定教科・科目を新たに設け、保育・幼児教育の制度や学習内容、子どもの発達などについて学ぶとともに、近隣の関係機関と連携し、実習や子育て体験などを行います。
- ・保育・幼児教育系大学や専門機関等の外部講師による出前講座や特別講座を実施し、造形表現や音楽表現などの保育技術を学習します。

(3) 医療系コースの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
小見川	6年度	普通科	・医療コースを設置

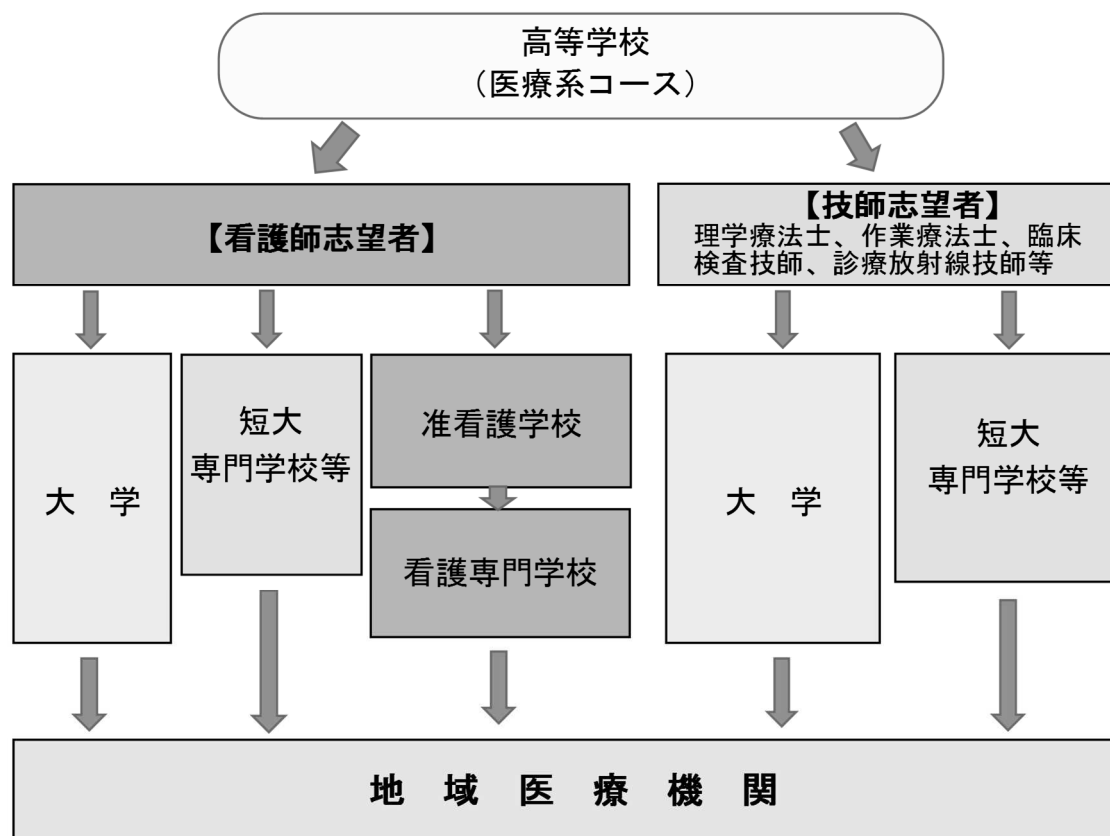
【再編の内容】

- ・近隣に位置する医療機関等との連携により、幅広い医療分野についての体験的な学習を通して、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、診療放射線技師、言語聴覚士等の医療従事者への意欲を醸成し、地域医療に貢献する人材の育成を図るため、小見川高校に医療コースを設置します。

【教育内容等】

- ・近隣に所在する地域医療の拠点等との充実した連携により、看護師や医療技師等を含む幅広い分野にわたる、多面的な教育を行います。
- ・医療従事者等による講演会や出前授業、また、病院や関連施設における実習等を通じて、医療への興味・関心を高めます。
- ・医療体験実習や大学における講義の受講等を通して、医療従事者になるための心構えを育むとともに、医療現場の実情や様々な職種についての理解を深めます。

《参 考》卒業後の進路イメージ



(4) グローバルスクールの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備考
松戸国際	6年度	普通科 国際教養科	・グローバルスクールを設置

【再編の内容】

- ・世界を舞台に持続的発展に貢献できるグローバル・リーダーを育成するため、**松戸国際高校にグローバルスクール**を設置します。また、グローバル人材育成のためのカリキュラムを開発し、その実践を普及します。

【教育内容等】

- ・持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）^{※1}を研究します。
- ・海外の大学や国内のスーパーグローバル大学^{※2}等への進学を指導します。
- ・TOEFL等の積極的な活用や、グローバル人材育成のための新たな学校設定科目の開発、研究、普及を行います。
- ・外国人講師等を活用した授業を行います。
- ・国際系の大学、専門学校や国際交流機関などの外部機関との連携・調整のために国際交流コーディネーターを指定し、国際交流活動を推進します。
- ・生徒が留学しやすい環境を整えるとともに、生徒が積極的に海外に目を向ける取組を進め、海外への留学を推進します。
- ・複数の海外高校と姉妹校提携を結び、留学生を相互に受け入れる体制を整えます。

※1 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）

ESDとは、「Education for Sustainable Development（＝持続可能な開発のための教育）」を略した言葉で、現代社会の課題を自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことです。

※2 スーパーグローバル大学

文部科学省が、国際化を徹底して進める大学について「スーパーグローバル大学」として採択し、大学改革を重点支援しています。世界レベルの教育研究を行う大学「タイプA（トップ型）」（13大学）と、日本社会のグローバル化を牽引する大学「タイプB（グローバル化牽引型）」（24大学）の2種類があります。

(5) 理数教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備考
船 橋	6年度	普通科 理数科	・理数教育の拠点校

【再編の内容】

- ・理数教育の手法について研究・開発を一層推進するとともに、県全体の理数教育の充実を図るため、船橋高校を理数教育の拠点校とします。
- ・拠点校には、理数教育連携事務局を設置します。

【拠点校の役割】

- ・拠点校に設置した理数教育連携事務局が窓口となり、理数科・理数系列設置校等、大学、外部機関（研究機関、企業等）及び小・中学校間の連携を一層推進します。

(1) 理数科・理数系列設置校との連携

各校の取組をとりまとめ、理数教育の手法等を普通科をはじめ、県全体で共有できる仕組みを構築します。

(2) 大学、外部機関（研究機関、企業等）との連携

大学や外部機関との連携による高大連携事業やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）※事業の積極的な活用、先進的なAI技術や設備を有する研究機関、企業等との連携を推進します。

(3) 小・中学校との連携

理数教育の拠点校を中心に、各理数科・理数系列設置校等の生徒や教職員が、小・中学校等を訪問し授業を支援したり、小・中学生が高校を訪問し授業を体験することにより理科や数学への興味・関心を高めるなど、地域における理数教育を支援します。

※ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

文部科学省が、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援する事業です。

○県立高校への指定状況

- ・船 橋 高 校：平成26年度～平成30年度（科学技術人材育成重点校平成26年度～28年度）
平成31年度～令和5年度（科学技術人材育成重点校平成31年度～令和5年度）
- ・柏 高 校：平成28年度～令和3年度
- ・佐 倉 高 校：平成31年度～令和5年度
- ・長 生 高 校：平成28年度～令和2年度 令和3年度～令和7年度
- ・木更津高校：平成28年度～令和3年度 令和4年度～令和8年度

なお、科学技術人材育成重点校とは、SSH基礎校の取組に加え、科学技術人材の育成に係る更なる取組を行う場合、追加的に支援を行うものです。

2 職業系専門学科・コース

(1) 農業教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備考
茂原樟陽	6年度	農業に関する学科 (農業科、食品科学科、 土木造園科) 工業に関する学科 (電子機械科、電気科、 環境化学科)	・農業に関する学科に 農業経営者育成に関するコースを設置

【再編の内容】

- ・農業経営がグローバル化や法人化、6次産業化*する中で、地域や社会の健全で持続的な発展を担う農業経営感覚を有し、将来は農業法人等を立ち上げる農業経営者を育成するため、茂原樟陽高校の農業に関する学科に農業経営者育成に関するコースを設置します。

【教育内容等】

- ・農業経営者のグローバル化や法人化、6次産業化や企業参入に対応した経営感覚の醸成を図るための学習を充実させます。
- ・近隣に所在する先進農業経営者、農業系大学、農業大学校、行政機関等との連携を強化し、農業経営者の育成に向けた取組を推進します。
- ・各連携先と協力し、出前講座や現地研修を実施するなど、充実した農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し、実践的なキャリア教育を展開していきます。

※ 6次産業化

農業者が、生産だけでなく食品加工や流通・販売にも取り組むことで生産物の価値を向上させる取組のこと。(1次産業×2次産業×3次産業=6次産業)

(2) 商業教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備考
千葉商業	6年度	商業に関する学科 (商業科、情報処理科)	・起業者育成に関するコースを設置
一宮商業	6年度	商業に関する学科 (商業科、情報処理科)	・観光に関するコースを設置

【再編の内容】

- ・ Society5.0時代の到来を踏まえ、予測困難な時代の中で、新たな価値を創造できる起業者精神を有する人材を育成するため、千葉商業高校に起業者育成に関するコースを設置します。
- ・ サービス経済化の進展や本県の産業施策に対応し、観光ビジネスの未来を担う人材を育成するため、一宮商業高校に観光に関するコースを設置します。

【教育内容等】

<起業者育成に関するコース>

- ・ 起業者精神の醸成及び新たな価値を創造できる柔軟な発想力の育成を図ります。
- ・ 近隣に所在する企業、商工会議所、大学等との連携により、起業者養成講座など充実した起業者育成教育の展開を図ることにより、実践的なキャリア教育を展開していきます。

<観光に関するコース>

- ・ 観光に関する知識や技術を習得するとともに、観光ビジネス従事者としての心構えやマナー、おもてなしの精神などを学習し、将来観光ビジネス分野で活躍できる人材を育成します。
- ・ 近隣に位置する観光施設や宿泊施設、商工会議所及び大学等との連携により、例えば、観光アプリの開発など充実した観光教育の展開を図ることにより、実践的なキャリア教育を展開していきます。
- ・ 観光ビジネスや旅行業務取扱管理者に関する資格取得を積極的に推進します。

(3) 福祉教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備考
松戸向陽	6年度	普通科 福祉教養科	・コンソーシアムを設置

【再編の内容】

- ・インターンシップや実習等、職業教育の充実により、県全体の福祉教育の質の向上を図るため、拠点校である松戸向陽高校を中心として、学校間連携や外部機関との連携を一層推進する組織（コンソーシアム）を設置します。
- ・拠点校にコンソーシアム事務局を設置し、連携コーディネーターを配置します。

【コンソーシアム】

- ・コンソーシアム事務局を中心に、福祉系学科・系列・コース設置校と各機関の間にネットワークを構築し、情報や教育手法などの共有を図ります。

(1) 大学・短大・専門学校等との連携

福祉に関する専門的な知識を深めるとともに実践的な技術を学ぶ機会を提供します。

(2) 社会福祉施設等との連携

生徒が福祉の仕事について実際に体験する場を設けるとともに、施設の職員による出前講座の実施など、実践的な取組を推進します。

(3) 行政機関・関係団体との連携

各高校に行政の施策や事業に関する情報を積極的に提供します。

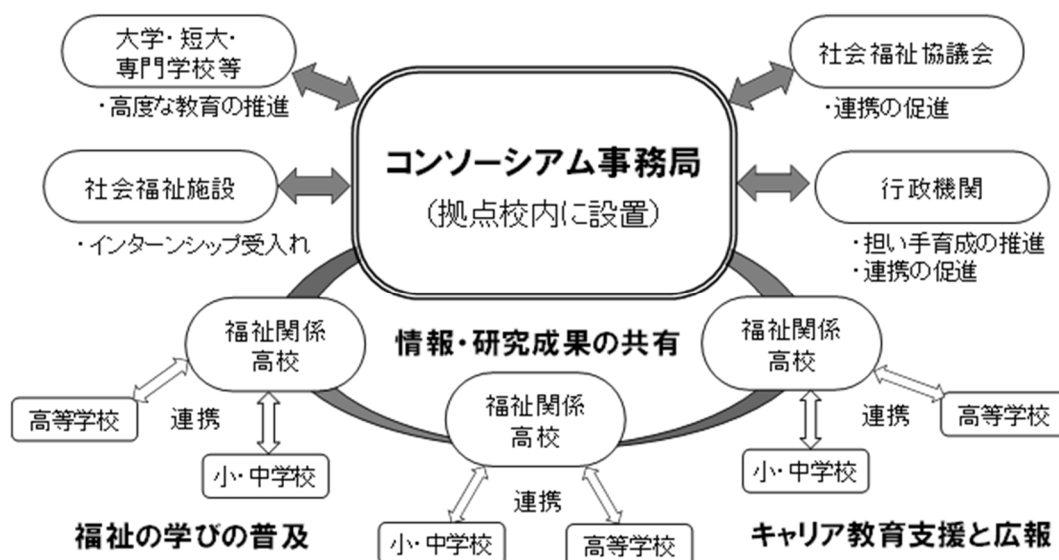
行政機関や関係団体と積極的に連携し、福祉人材の育成を図ります。

(4) 学校間連携

福祉系学科・系列・コース設置校が各地区の福祉教育の中心校となり、学校間ネットワークを構築し、生徒や教職員が小・中学校に出向いて福祉の学びを紹介するなど、地域におけるキャリア教育を支援します。

各学区の中心校において、近隣の高校に通う生徒が福祉について学ぶ機会を提供する仕組みを整えます。

《参 考》連携組織（コンソーシアム）のイメージ



対象高校	実施年度	設置学科	備 考
船橋豊富	5年度	普通科	・福祉コースを設置

【再編の内容】

- ・地域や県全体の福祉教育の充実を図るため、地域バランス等を考慮し、船橋豊富高校に福祉コースを設置します。

【教育内容等】

- ・主として、高齢者の介護に必要な専門知識や技術を習得するとともに、介護従事者としての心構えや配慮、マナーを学習し、将来福祉分野で活躍できる人材を育成します。
- ・近隣に位置する福祉施設や、福祉系大学及び学部と積極的に連携し、充実した福祉教育の展開を図ります。
- ・介護従事者等の人材育成及び職業教育の一層の充実を図る観点から、卒業時に介護職員初任者研修修了者資格を取得します。
- ・既に福祉教育に取り組んでいる学校の実践等で得られた成果を共有し、教育内容の一層の充実を図ります。

(4) 情報教育の充実

対象高校	実施年度	設置学科	備考
袖ヶ浦	6年度	普通科 情報コミュニケーション科	・情報コミュニケーション科に 先端ITコース（仮称）を設置

【再編の内容】

- ・世界中で加速するデジタル環境に対応できる先端IT人材^{※1}を育成するために袖ヶ浦高校の情報コミュニケーション科に先端ITコース（仮称）を設置します。
- ・これまでに取り組んできたICT機器を活用したコミュニケーションなどの学びをさらに発展させ、高度情報通信社会を支える人材を引き続き育成します。

【教育内容等】

- ・AIの設計・開発やAIが学習したデータを解析するなど、先端IT人材を目指す生徒にとって必要なプログラミングや統計処理などのスキルを育みます。
- ・情報・数学・理科・英語の教科内容を深化させ、先端IT技術を扱う上での基礎的・基本的内容の学習を行う多彩な学校設定科目を設定します。
- ・大学等への進学を重視する中で、IoT^{※2}及びAI^{※3}を活用した先端技術などに対応できるよう、大学や外部機関との連携を強化します。

※1 先端IT人材

「システムコンサルタント・設計者」、「ソフトウェア作成者」、「その他の情報処理・通信技術者」をIT人材と呼びます。その中で、IoT及びAIを活用したITサービス市場に従事する人材を先端IT人材と定義しています。

※2 IoT

Internet of Things（モノのインターネット）の略で、センサーを搭載したモノ同士がインターネットを介してつながることにより、人が介在しなくてもモノが自動でサービスを提供してくれるシステムのことを言います。

※3 AI

人工知能（Artificial Intelligence）の略称。人間と同じ知的作業をする機械を工学的に実現する技術のことを言います。

3 総合学科

(1) 総合学科の設置

対象高校	実施年度	設置学科	備考
匝 瑳	6年度	総合学科	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科と理数科を改編し総合学科を設置 ・理数科は、理数系列に再構成 ・国際に関するコースは、国際系列に再構成

【再編の内容】

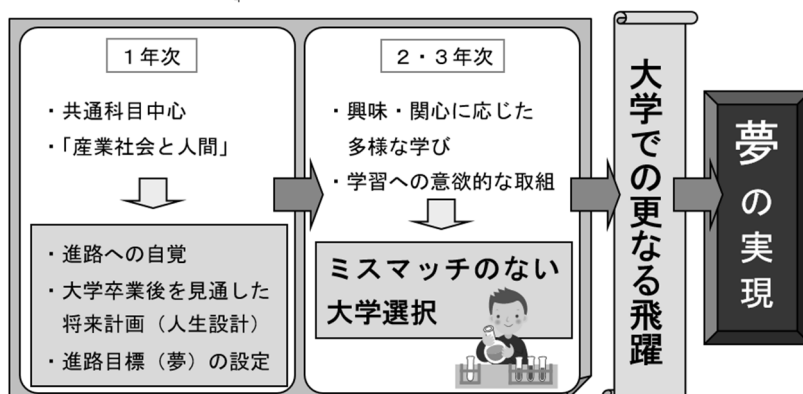
- ・生徒の多様な進学希望に対応するとともに、大学卒業後の就業までを見通したキャリア意識の高い人材を育成するため、匝瑳高校の普通科と理数科を改編し、進学を重視した総合学科を設置します。
- ・匝瑳高校の理数科は、理数系列に再構成します。
- ・匝瑳高校の国際に関するコースは、国際系列に再構成します。

【教育内容等】

- ・「産業社会と人間」や総合的な探究の時間を活用し、1年次より、将来の職業選択に応じた大学等への進路選択が円滑に行われるよう、計画的なキャリア教育を実施します。
- ・これまで設置した学科や導入したコースの学びを生かすとともに、生徒の学習ニーズに応じた新たな系列を設置します。具体的な系列については、設置校の職員で構成する準備委員会で検討します。
- ・現在設置されている多彩な選択科目や2学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定や学年の枠を越えた授業選択の実施など、教育内容の一層の充実を図ります。
- ・大学等と連携した進路指導を積極的に行うとともに、進学に向けた実力養成講座や課外補習等を実施します。

《参 考》進学を重視した総合学科のイメージ

総合学科高校



4 社会のニーズに対応した教育

(1) 地域連携アクティブスクールの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備考
行徳	6年度	普通科	・地域連携アクティブスクールを設置
市原	6年度	普通科 園芸科	・地域連携アクティブスクールを設置

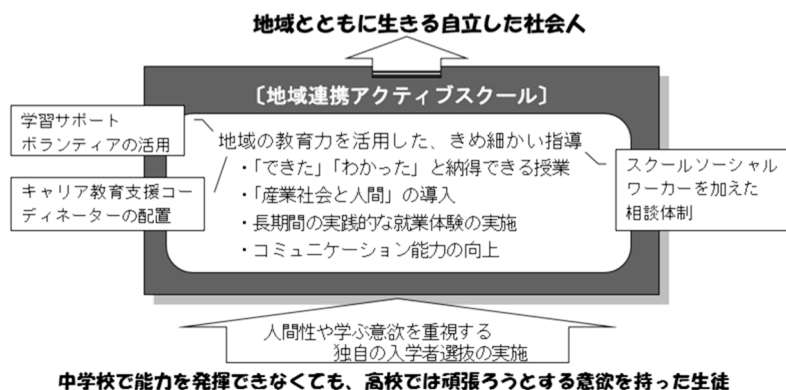
【再編の内容】

- ・地域との協同により、一人一人の生徒に応じた「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を通じて、基礎学力やコミュニケーション能力を身に付け、自立した社会人を育成する**地域連携アクティブスクール**を行徳高校と市原高校に設置します。

【教育内容等】

- ・地域の大学や企業等との多様な連携を推進し、体験的な活動を通して視野を広げるにより自己肯定感を育み、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を実践します。
- ・キャリア教育支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーなどを配置して、学びのセーフティネットとしてきめ細かな教育相談体制により生徒の成長を支える指導の更なる充実を図ります。
- ・学び直しを始めとする、学ぶ意欲に応えるきめ細かな学習指導を行い、基礎学力を身に付け、生徒の満足度を高めます。
- ・「産業社会と人間」を導入するとともに、コミュニケーション能力を身に付けるトレーニングや、実践的な就業体験を取り入れるなど、充実したキャリア教育を行います。
- ・現行の地域連携アクティブスクールの学びをより一層充実するとともに、県内の高校に向けてそのスキルを発信し、共有します。
- ・高校で学ぼうとする意欲や思いを丁寧にみる独自の入学者選抜を実施します。
- ・行徳高校では、これまで独自に推進してきた学び直しやキャリア教育に係る取組を地域連携アクティブスクールの学びに生かします。
- ・市原高校では、既設の普通科及び園芸科、福祉、緑地管理及び商業に関するコースでこれまで推進してきた地域人材の育成に係る取組を地域連携アクティブスクールの学びに生かします。

《参 考》「地域連携アクティブスクール」の仕組み



(2) 通信制高校の配置（通信制協力校）

対象高校	実施年度	設置課程	備考
銚子商業	6年度	全日制 定時制	・通信制協力校に指定

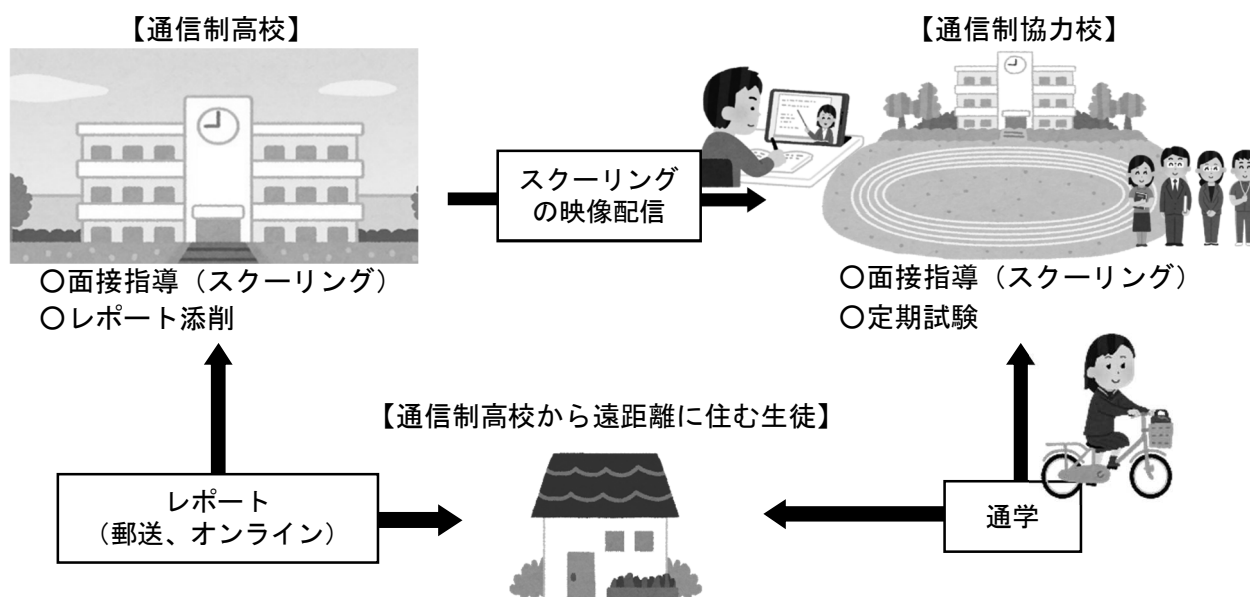
【再編の内容】

- ・千葉大宮高校から遠距離に居住している生徒の通学時間や交通費の負担軽減につなげるため、千葉大宮高校から遠距離にある高校で面接指導（スクーリング）や定期試験を受けられるよう、銚子商業高校を通信制協力校に指定します。

【教育内容等】

- ・面接指導（スクーリング）では、教員による従来の対面指導に加え、インターネットを活用したスクーリングやオンデマンドの動画教材など、生徒の状況や学習場面に応じて、効果的に情報通信技術（ICT）を取り入れた学習環境づくりを推進します。
- ・添削課題（レポート）では、オンラインによるレポート提出を導入するなど、インターネット等の情報通信技術（ICT）を効果的に活用します。

《参 考》通信制高校と通信制協力校のイメージ



前プランでは、「第4次実施プログラム」において、千葉大宮高校に通う生徒の利便性を向上させるため、館山総合高校定時制を通信制協力校に指定し、面接指導（スクーリング）や定期試験を実施しています。

Ⅱ 県立高校の適正規模・適正配置

全日制高校

1 全日制高校の適正規模・適正配置

【これまでの経緯】

本県では、これまでに、中学校卒業生数の減少に対応するため、募集定員の削減や、前プランにおいて3校の統合1組を含む3組の統合を実施するなど、規模や配置の適正化を進めてきました。

しかしながら、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、中学校卒業生数がさらに約6,200人減少することが見込まれており、これは学級数に換算すると約155学級分に相当します。

そこで、『県立高校改革推進プラン』（令和4年3月策定）の【具体計画の方向】において、県立高校の適正規模・適正配置について、

- 多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。
- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。

としました。

【今後の対応】

中学校卒業生数の減少に対して、県立高校 121 校を引き続き維持しながら募集定員減で対応するだけで、適正規模を維持することは困難となります。

また、学校の小規模化により、生徒や教職員数が減少し、生徒同士の切磋琢磨の機会確保や、教育課程の柔軟な編成、活力ある教育活動による生徒の多様なニーズへの対応が困難になったり、学校行事や部活動なども制限されたりと、特色ある教育活動の充実に支障をきたすことが考えられます。

そのため、全県的な視野に立ち、引き続き、統合による再編も含め、適正規模・適正配置に努めていく必要があります。

なお、統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて、地域の方々から地域における学校の在り方について意見を伺い、検討を進めていきます。

また、それぞれの学校が長年培ってきた伝統や学びなどの継承や、施設設備の改善・充実による、より効果的な教育環境の提供、地域の資源を生かした教育活動による学校の活性化など、新たな方策も含め、引き続き研究し、検討を終えたものから公表していきます。

《都市部について》

都市部では、令和 5 年度には、全日制において 1 学年 3 学級以下の学校が 2 校、4 学級の学校が 6 校、5 学級の学校が 5 校となります。

適正規模の維持が困難と見込まれる学校を中心に、地域における高校の在り方を検討した上で、活力ある教育活動の維持や学習環境・課外活動の更なる充実を図るため、統合による再編を検討します。

検討にあたっては、地域の実情等を十分に考慮しつつ、統合により、より魅力ある高校となるよう改善を図りつつ、適正規模の維持に努めます。

《郡部について》

郡部では、令和 5 年度には、全日制において 1 学年 3 学級の学校が 11 校となります。

高校の選択肢が限られる中、多様な高校選択の機会や通学の利便性を確保しつつ、地域との連携や協力を得ながら、将来地域の担い手となる人材を育成できるよう、高校の在り方について検討します。

統合にあたっては、適正規模の維持が困難となることを見込まれる学校であっても、ただちに再編の対象とするのではなく、地理的条件や公共交通機関の状況、地域の抱える状況、学科の配置バランス等を踏まえ、「教育を受ける機会の確保」についても配慮し、生徒にとってより良い高校の在り方について検討します。

また、地域によっては、少子高齢化を伴う人口減少の進行により、ますます地域社会が

衰退していくことが懸念されています。そこで、高校生が地域社会の一員として主体的に地域に関わることで、地域社会や地域産業の発展・振興を担う人材の育成につなげることが期待されています。

さらに、高校においては「学びの場を保障し、これからの時代を生き抜く力を育成する」ために、また、地域においては「地域の活性化」のために、これまで以上に高校と地域が連携・協働することが必要です。

そこで、「通学が著しく困難となる地域の生徒」を対象に、「小規模校でも学校を残すことで、通学への負担を軽減し、学びの場を保障するとともに、学校と地域が連携・協働をし、地域ならではの資源を活用した教育活動を展開する」ため、**地域連携協働校**の指定について検討します。

地域連携協働校では、各校の特色ある学びを通して、「地域の将来を担う人材」や「地域社会に積極的に参画する人材」の育成を目指します。

【基本的な考え方】

都市部

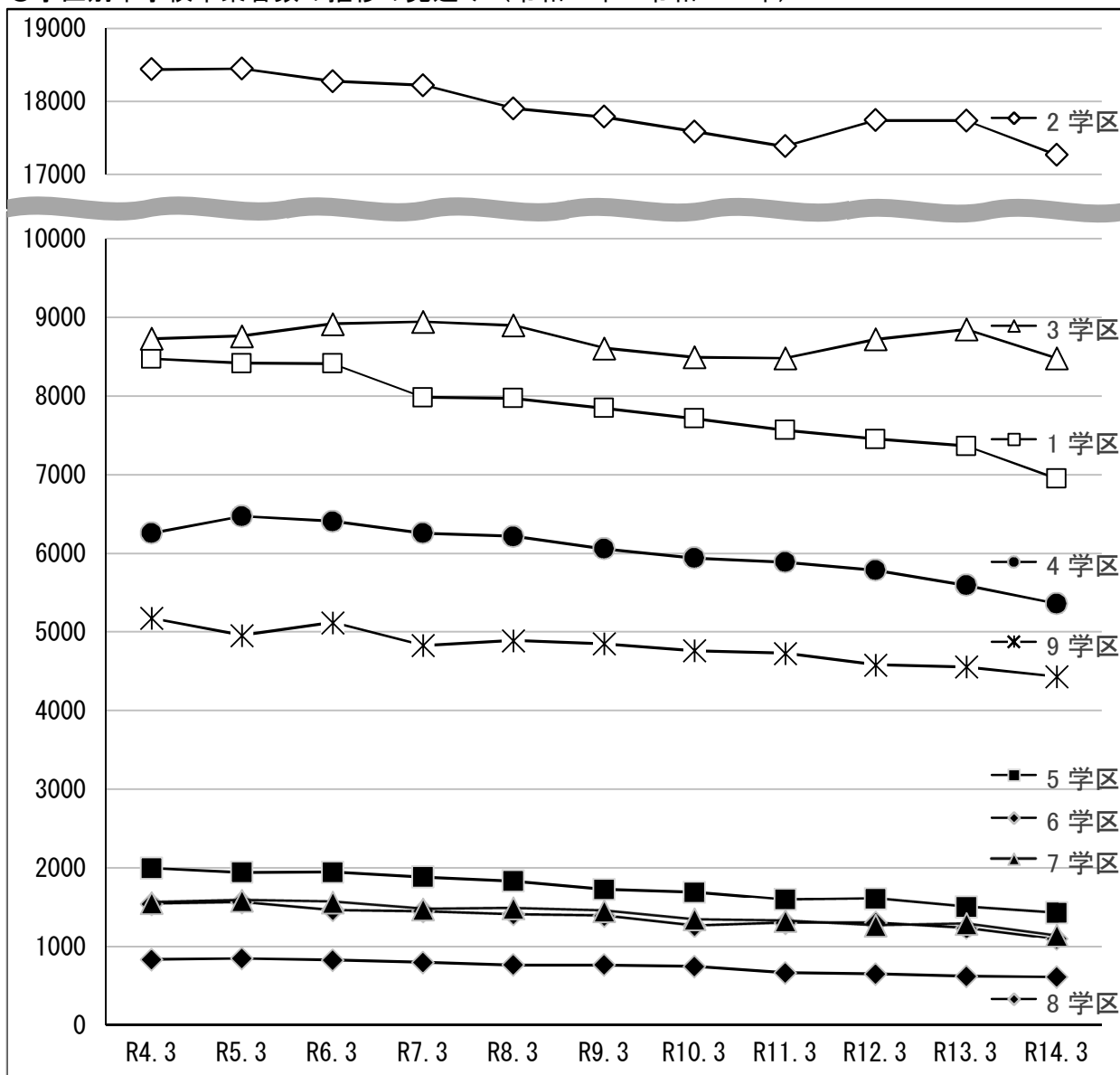
- 適正規模未満の学校や将来適正規模の維持が困難となることが見込まれる学校及び同じタイプの学校が近接している場合には、適正配置を考慮しながら、規模の最適化を図ります。
- 統合に当たっては、地域の実情等を十分に考慮しつつ、対象校がそれぞれ培ってきた伝統や文化、特色ある学び等を継承するとともに、新たな教育内容・方法等を積極的に導入し、様々な特色や個性をもった魅力ある学校を目指します。

郡部

- 統合により通学が著しく困難となる地域であり、かつ地元からの進学率が高い高校を**地域連携協働校**に位置付けます。
- **地域連携協働校**は、学校運営協議会制度を導入するなど、地域の協力・支援を得つつ、地域と一体となり、地域ならではの資源を活用し、「地域の将来を担う人材」や「地域社会に積極的に参画する人材」の育成を目指します。
- **地域連携協働校**の運営体制については、学校運営を円滑に推進するために、必要に応じて、近隣の高校を協力校に指定するなどし、出張授業やICTを活用した授業をはじめ、生徒会交流や部活動の合同実施、教職員の研修など、必要な事項について連携、協力を図ります。
- **地域連携協働校**に指定された高校も含め、生徒募集において著しく困難が生じる場合については、統合も検討します。

《関連データ》

○学区別中学校卒業生数の推移の見込み（令和4年～令和14年）



出典：学校基本調査（文部科学省）及び千葉県年齢別町丁字別人口調査（千葉県総合企画部統計課）を基に教育政策課にて作成

○都市部（1～3学区）で6学級以下、郡部（4～9学区）で4学級以下の全日制高校（1学年）

学級	1学区	2学区	3学区	学級	4学区	5学区	6学区	7学区	8学区	9学区
6	京葉工業 千葉工業 柏井 犢橋	船橋古和釜※1 船橋法典 市川工業 松戸 松戸向陽	沼南高柳 流山北※1 我孫子東	4	八街	小見川 銚子 東総工業	大網	茂原 一宮商業 大多喜 大原	長狭※4 安房拓心 館山総合※4	木更津東 姉崎
5		八千代西 船橋北 浦安※4	鎌ヶ谷西 流山	3	下総※4	多古※4 旭農業	松尾※4 東金商業 九十九里※4			天羽※1 君津青葉 市原 京葉※4 市原緑
4	泉※1	船橋豊富※4 行徳 浦安南	沼南 清水							
3			関宿※3							
2	生浜※2※4									

- ※1：地域連携アクティブスクール
- ※2：多部制定時制併置
- ※3：連携型中高一貫教育校
- ※4：コミュニティ・スクール

（令和5年度第1学年生徒募集定員より）



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん